

中学生のこころの状態と「色彩樹木画」との関連について

The relation between state of the mind and "Color tree drawing" of junior high school student

中村仁志 Hitoshi Nakamura・太田友子 Tomoko Oota

山口県立大学看護栄養学部看護学科 Department of Nursing,

Faculty of Nursing and Human Nutrition, Ymaguchi Prefectural University

要旨

現在、学校場面において行動・精神面での問題を抱える児童・生徒が多く存在する。今回の調査で、困っていることとして「勉強の問題」、「友だち関係」が多く、こころの状態については「嫌なことを思い出す」、「いらいらする」が対象者の半数以上いた。

現在、中学校生徒を対象としたスクールカウンセリングの一環として、樹木画テストによって描かれた「色彩樹木画」を用いて生徒のこころの内面を理解・分析し、生徒の支援を行っている。あまり時間がかからず行える樹木画テストで面接場面の情報だけではなく、違う側面でこころの様子を把握できる。さらに、行動・精神面での問題を抱える生徒のこころの状態を、「色彩樹木画」を持って保護者や教師に説明することで、生徒の問題理解を深めてもらっている。活用結果から、「色彩樹木画」を使った教師や親に対する説明は、情報提供と理解が進む方法と考えられた。

キーワード 色彩樹木画、行動・精神面での問題、こころの状態、中学生、抑うつ

はじめに

現在、学校場面において行動・精神面での問題を抱える児童・生徒が多く存在する。傳田¹⁾によると現在、抑うつ傾向を示す児童・生徒が増加しているとし、中学年代では5人に1人の割合で抑うつ傾向を持つとの結果を報告している。また、平成21年度間の不登校児童・生徒は少子化の影響で昨年に比べて4千人減少しているものの、依然として12万2千人を数えている²⁾。こうした児童・生徒の行動・精神面での問題は「気になる」として表面化してくる。学校場面において「気になる」要因として、環境や情緒的な問題による葛藤、不安などにより行動・精神面での問題を起こしやすくなる。そうした中で、別の要因として発達障害による問題があり、二次障害として行動、精神面の問題も起こしやすいとされている³⁾。しかし、佐々木⁴⁾は「発達障害の子どもや人が、いわゆる情緒障害としての二次障害を起こしやすいと考えるのは大きな誤りで、われわれが適切な知識や教育法に無知のあまり、そういう状態に追い込んでしまっていることを知らなくてはならない」ともしている。対応策として平成19年度より特別支援教育が行われ始めた。

このように、これまで児童・生徒の心理的・精神的状態を捉え、問題の予防や介入を行うために、様々

な対策が取られてきているが、問題として増加傾向にあると共に、複雑化しているのが現状である。また、本人の保護者、教師など児童・生徒を取り巻く者達の行動・精神面での問題に対する理解度は様々であり、それによって対応もまちまちになってくる事も状況を複雑にしている要因の一つである⁴⁾。しかしながら、やはり問題の原因を把握し、心理的内面を理解することはなかなか困難なことである。

現在、中学校生徒を対象としたスクールカウンセリングの一環として、樹木画テスト⁵⁾を用いて行動・精神面での問題や発達の問題に対してこころの内面を理解・分析し、生徒の支援を行っている。中学校でのスクールカウンセリングでは、問題に対して十分な検査を行い多面的に問題把握を行う環境が整っていない。余り時間を取らず行える樹木画テストによる「色彩樹木画」を用いることにより、浅くではあるが面接場面の情報だけではなく、違う側面でこころの様子を把握することができている。また、行動・精神面での問題を抱える生徒のこころの状態を「色彩樹木画」を用いて保護者や教師に説明することで、生徒の問題理解が深まり、状態を共通認識できるケースが徐々に増えてきている。さらに、発達的な特徴も捉えることができ、発達障害の生徒の問題への介入・改善に寄与できると考えている。

今回、中学校生徒の抱えるこころの問題が「色彩樹木画」にどう反映し、親や教師にどう伝えていけるのか検討し、どう活用しているのかについて報告する。

研究方法

1) 対象

B中学校1年生全員86人対象（有効85人）

2) 方法

クラス毎に“こころの健康調査”として以下の調査を行った。（平成21年5月～7月の放課後実施）

<調査項目>

① 16色のクレヨンで描く「色彩樹木画」

② 描いた木に対する質問

③ 現在の学校での様子

友達、勉強、部活、悩み（対象7項目含む）

④ 抑うつに関連したこころの状態15項目

こころの問題と「色彩樹木画」の関連を含めて検討し、相談資料として用いた。

3) 「色彩樹木画」について

樹木画テストは投影法に分類されるC.コッホ⁵⁾によって体系化された心理検査の一つであり、樹木画は描いた者のこころの内面を表しているとされる。

一般的に樹木画テストでは、鉛筆を使って木の絵を描かせるが、「色彩樹木画」は16色のクレヨンを用いて描かせたものである。

教示：（こころに浮かんだ）木の絵を描いて下さい。

道具：八つ切り画用紙（四つ切り半折り）

16色クレヨン

<描いた木に対する質問>

① この木はどんな木をイメージして描きましたか

② この木の大きさはどのぐらいですか

③ この木はどんなところに生えているのでしょうか

④ 季節はいつですか

⑤ この木の年齢は（描いた木を人に例えてください。樹齢ではありません）

⑥ この木の性別は（描いた木を人に例えてください）

⑦ この木は今、なにを考えたり、思ったりしているのでしょうか

⑧ 描いた自分の絵を見てどう思いますか

4) 倫理的配慮

尚、この調査は個人相談時に使うとともに、研究で使わせてもらう場合があり、研究で使う場合、個

人情報がもれないように十分配慮することを口頭と文書で説明し、文書は保護者に見せるよう伝えた。

また、相談事例については、保護者に口頭で説明し、承諾を得た。

結果

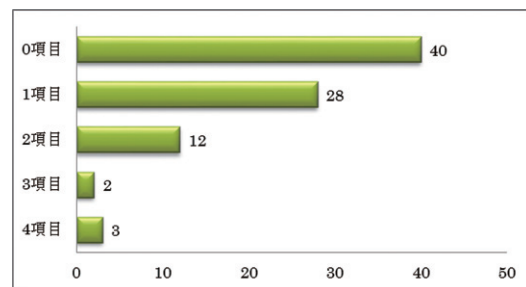
1) 平成21年度 B中学校こころの健康調査 I

中学校1年生全員86人対象に調査を行い、有効回答数85人（98.8%）であった。

(1) 「困っていること」について

まず、「学校は楽しいか」を聞いた後、「友だち」、「勉強」、「部活」の様子について聞いた。さらに困っていることとして「友だち関係」、「親との関係」、「兄弟との関係」、「先輩との関係」、「勉強の問題」、「身体の問題」、「やる気の問題」の7項目を選んで貰った。

学校について「すごく楽しい」が46人（54.1%）、「少し楽しい」31人（36.5%）、「少し楽しくない」8人（9.4%）で「全然楽しくない」と答えたものはいな

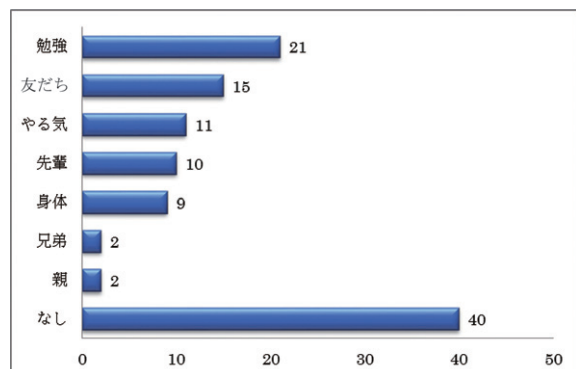


n=85 図1 困っていることの該当項目数（人）

かった。

友だちについては、学校には「いない」と答えたものが1人（1.2%）であり、「同じクラスにいる」と答えたものが72人（84.7%）だった。その他の12人（14.1%）は「他のクラス」や「部活」に友だちがいた。

困っていることのないものは40人（47.1%）で、半数近くに困っていることのないものがいた（図1）。



n=85 図2 困っていることについて（人）

困っていることについては「勉強の問題」が最も多く21人(24.7%)であり、「友だち関係」が15人(17.6%)に見られた(図2)。

学校が面白くないと答えたもの8人(9.4%)の自由記載では、「面倒くさい」、「嫌な人に嫌な言葉やいじめがあるから」、「先生や友だちとの問題」、「自分と気の合わない人がいて、良い子ぶっているのに、少しその人は苦手」、「部活が楽しい。でも、先輩と自分たちの差があまり好きでない(ねむたい)」、「朝行くのがめんどくさい」、「友だちのことでいろいろあるから」、「勉強が疲れる。部活がきつい。部活の友だちとうまくいかない」と友だちなどとの人間関係の問題が目立っていた。

尚、学校が面白いと答えたほとんどのものが、仲の良い友だちの存在を上げていた。

(2)「困っていること」について該当項目数4項目を上げた事例の「色彩樹木画」

「困っていること」について4項目を挙げた3人の「色彩樹木画」を以下に示す。

事例1

◆困っていること(4項目)

- 「兄弟との関係」、
- 「先輩との関係」、
- 「勉強の問題」、
- 「やる気の問題」

<絵について>

- ◆丘の上に立っている大きな木
- ◆他の木よりも大きめの木
- ◆丘の上 ◆春
- ◆24歳、女
- ◆一番大きな身体でみんなと離れている感じ



事例2

◆困っていること(4項目)

- 「親との関係」、
- 「先輩との関係」、
- 「身体の問題」、
- 「やる気の問題」

<絵について>

- ◆きみどり色のちょっと大きい木



- ◆2mぐらい?
- ◆公園?
- ◆春 ◆8歳、女
- ◆あったかいなあ…とか
- ◆ちょっと草が少なかったかも…バランス悪。

事例3

◆困っていること(4項目)

- 「兄弟との関係」、
- 「先輩との関係」、
- 「勉強の問題」、
- 「やる気の問題」

<絵について>

- ◆光が当たってきらきら光るので、幹に白い服、ぼうしをかぶった少女がすわっている。
- ◆学校の校舎よりもガゼデでかい
- ◆町の外れ
- ◆春 ◆80歳、女
- ◆空を見ている
- ◆そうぞう図よりも全く似ていない



(3) ころの状態について

ころの状態について抑うつに関連した15項目の質問をし、該当項目に○をつけてもらったところ、「嫌なことを思い出す」が最も多く54人(63.5%)、「いらいらする」が44人(51.8%)で、この2項目では対象者の半数以上のものが該当すると答えていた。また、対象者の1/3を超えた項目は、「気分が沈む」、「身体が緊張することがある」、「集中できない」、「悪夢を見る」、「自分は悪い人間と思う」の5項目であった(図3)。

n=85

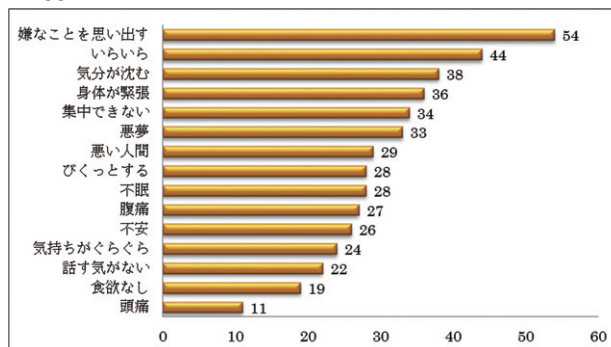


図3 ころの状態についての15項目 (人)

また、該当項目数について最も多くの項目に○をつけたものは13項目であり、4人(4.7%)いた。最も多かったのは、2項目13人(15.3%)であり、次が7項目12人(14.1%)だった。2項目と7項目での2極性が見られた。7項目以上に○をつけたものが37人(43.5%)だった。何も問題がないものは、6人(7.1%)しかいなかった(図4)。

n=85

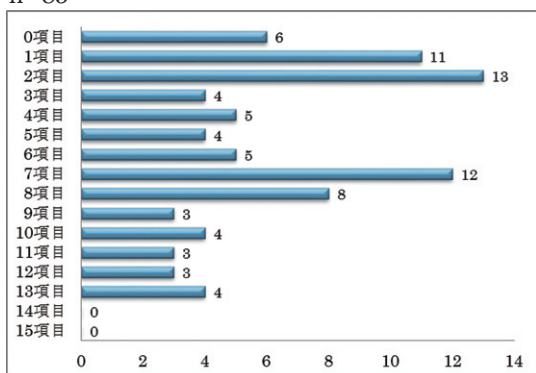


図4 こころの状態の該当項目数 (人)

(4) こころの問題について該当項目数13項目を上げた事例の「色彩樹木画」

事例1

◆該当しなかった項目(2項目)

食欲なし、頭痛あり

<絵について>

◆まんがなどに出て

くる木

◆2m30cm

◆山 ◆夏

◆30歳、男

◆どこかに行きたい

◆バランスが良くない(色)



事例2

◆該当しなかった項目(2項目)

食欲なし、頭痛あり

<絵について>

◆森の奥深くのどっかい木

◆B中の生徒のいる建物の3階ぐら



い。

ものすごくでかい。

◆森林や森の奥にある広い草原にたった一本ある木

◆夏(夏休み) ◆年寄り、男

◆木のまわりで遊んでくれるととても楽しい

◆良くできたと思う

事例3

◆該当しなかった項目(2項目)

話す気なし、集中力なし

<絵について>

◆大きな葉っぱがた

くさんある木

◆自分の身長2倍

◆川の近くの道となり

◆夏

◆20歳、女

◆みんなが幸せになれるかと思っている。

◆大きく書けた。



事例4

【前出】「困っていること」について該当項目数4項目を上げた事例1

◆該当しなかった項目(2項目)

悪夢あり、食欲なし

(5) 相談事例について

SC相談生徒 A子(中1)

中学入学後部活に入部したが、「部活の同級生と旨くやっていけない」とのことで、1学期末から断続登校をするようになった。1年生2学期になってから2・3日の登校をしたが、その後、「学校が怖い」と言い、不登校となった。

<木について>

◆どこにでもある木

◆150m

◆森の奥深く

◆春



- ◆ 50歳、女
- ◆ 友達のこと
- ◆ 少し雑多と思った
- ◆ 「困っていること」について
なし
- ◆ ところの問題について該当項目（5項目）
「気分が沈む」、「びくっとする」、「いらいら」、
「集中できない」、「不安」

<木についての着目点>

- ◆ 樹冠はこんぶのような枝があり、枝を隠さず大きめの樹冠を緑で塗っている。
- ◆ 幹は下に行くほど太く、画用紙の下端から始まっている。
- ◆ 樹冠が濃く塗ってあるのに対し、幹は下の方に少しの縦模様が入っているだけで塗っていない。
- ◆ 緑のほくろのような点が幹左上にある。
- ◆ 画用紙の上に一筋の空。下には地平線に黒い土。

考察

B中学校1年生に対する調査であるが、「勉強」について個別に聞くと「小学校の頃は、勉強も分かってた」、「成績も良かったけど、中学校になったら分からなくなった」などの意見が聞かれ、小学校の学習から中学校の学習への移行がスムーズにできていないことを伺わせる。

中西⁶⁾は、「1990年代から友だち関係が『広く、浅い』関係が、消費文化社会の影響によって起こっている」とした上で、「もっと友だちと親密になりたい、積極的に関わりたい、自分のことを分かって欲しい、自分を肯定して欲しいという思いは強まっている」としている。P.ブロス⁷⁾は中学1年生の思春期前期に当たる時期には「友だちが映し出す自分自身を見て『もう一人の自分』を確認していくこと」をあげ、本当の自分探しに、友だちは大切な要素になるとしている。今回の結果でも、「勉強」の問題に続き、「友だち」の問題が困っていることで多く見られた。学校生活が楽しいと思える理由として「友だち」関係を上げ、生徒はこの時期を有意義に過ごすためには友だち関係が重要であると感じていることが伺える。

抑うつ状態について点数化し評価できる検査を行ってはいないが、傳田¹⁾が言うように抑うつの

様相を示している生徒が多く、緊張し、いらいらしながら、自分をネガティブに評価している姿が見受けられた。

そうした状況の中、中学生生徒の行動・精神面での問題の要因の一端を理解するために「色彩樹木画」を用いて分析する試みをしている。H.ヒルトブルナー⁸⁾は、「木の形と人間の形との間には一つの関係がある。木の植物生活は立像という点で最も人間性と類似している。木との銘記すべき出会いは、とりもなおさず自分自身との出会いであるといえないだろうか」とした言葉を受け、C.コッホ⁵⁾は「木に表現されるものは人間に似ており、それは心の投影である」と樹木画を分析、解釈することの意味を述べている。木の描写で表現される描かれた樹木画は一般に無意識の自画像を描く（自己の投影）とされ、描かれた木の形や動きや全体の印象などを考察する投影法による心理テストとして診断の補助的役割を取っている。

樹木画テストについての利点として、[1] 木はイメージしやすく誰にでも描くことができ、抵抗なく手軽で、実際的である点。[2] 言葉で表すことのできないものや、言葉で表そうとしないものを捉えることができる点。[3] 言語性イメージを視覚性イメージに換え、幅広い自己表現から特に言語的表現力に頼らず情報得ることが出来る点。[4] 作品が残り、分析が時間をかけて出来る点が上げられる。言語的表現能力の未熟な中学生以下の児童・生徒に対して、非言語的交流によって内面的なこころの状態の理解をするのに適しているテストである。

この「色彩樹木画」の利用については、特に「手軽である」という点で、時間の十分取れないスクールカウンセリングの場面では、すぐに情報が得られる良い検査と考えている。さらに、樹木画についての質問で、言語的な面からの情報も得られるところも利点である。ただ「色彩樹木画」ところの状態とを正確に関連づけることは難しいが、相談事例のように「色彩樹木画」を用いて、保護者や教師へのこころの状態の共通理解を行うアイテムとしては、十分活用できると考えている。

事例の木については、母親に以下のように解釈し、説明することによって理解を求めた。

樹冠内の枝がこんぶのようで、“もやもや”と湧き上がる力や感情と捉えられるが、それを支える幹が太いにもかかわらず塗られていないために安定感

が感じられず、樹冠部を支えきれないバランスの悪さを感じる。“もやもや”を隠すように樹冠を濃く塗っている。

画用紙の下からの立ち上がりは幼児性を示し、幹が着色されていないことと共に、A子の中学生としての未熟さを感じ、こうした未熟さやバランスの悪さから、先輩や思春期にさしかかった同級生に対して、恐れや不安を感じているのかも知れない。

150mの巨大な木を描きながら、“どこにでもある木”として森の奥深くにひっそりと目立たず潜んでいる。しかしながら、「友達のことを考えている」といった、人間関係に関する希求を示している。

見て欲しいのに見られたくない両価性の感情や、力強い枠組みを持っているのにエネルギーが充満してないことで自己評価が低さを見せるなど、全体的に思春期的なエネルギーの偏りを感じさせる木である。

まとめ

B中学1年生では、殆どの生徒が学校は楽しいところと感じており、自分のクラスに友だちがいていた。

困っていることとして「勉強の問題」「友だち関係」が多かった。

こころの状態については「嫌なことを思い出す」、「いらいらする」が対象者の半数以上を占めていた。

「色彩樹木画」の利用については、特に「手軽である」点、簡易的ではあるがこころの内面を把握するための補助的手段に使い、これを使っての親や教

師に対する説明は、情報提供と理解が進む方法と考える。

文献

- 1) 傳田健三、賀古勇輝、佐々木幸哉他：小・中学生の抑うつ状態に関する調査－ Birleson 自己記入式抑うつ評価尺度 (DSRS-C) を用いて－、児童青年精神医学とその近接領域、45、424-436、2004)
- 2) 文部科学省：平成 22 年度学校基本調査速報、2010.8.5.
- 3) 宮本信也：発達障害とその周辺への支援 思春期に見られる問題とその支援、日本小児科医学会報 (0912-1781) 38 号 Page79-82 (2009.10)
- 4) 佐々木正美：発達障害への理解と対応 思春期をより円滑に乗り越えるために、脳と発達 (0029-0831) 42 巻 3 号 Page179-183 (2010.05)
- 5) Charles Koch:THE TREE TEST (THE TREE-DRAWING TEST as an aid in psychodiagnosis), 林 勝造 他訳：バウム・テスト—樹木画による人格診断法、日本文化科学社、1970.
- 6) 中西新太郎：子どものサブカルチャー大研究、旬報社、1997.
- 7) Peter Blos:on adolescence, 野沢栄司訳：青年期の精神医学、誠信書房、1971.
- 8) Hermann Hiltbrunner:Baume,Artemis-Verlag,Zurich,1946.